

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成しユニット入り口、洗面台等目につく所に掲示し、常に理念を念頭におきケアにあたっている。	法人母体の標語を基に、理念を作成し、家庭的な雰囲気の中で、毎日理念の復唱を行い、利用者一人ひとりに、理念に基づいたサービスの実践がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへ出かけたり、事業所主催の祭りには近所の方々に来て頂いている。又、買い物は地元の商店やスーパーを利用し、一緒に出掛けたりしている。	特養を中心に3事業所合同で、地域行事の催し物、祭り等に積極的に参加が図られている。今後、学生、ボランティア等どなたでも立ち寄ることのできる事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム独自では取り組んでいないが、隣接の特養施設と自事業所主催の介護教室への参画を次年度より行っていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告、事故報告等の他、法人独自の施設評価結果等の報告を行い意見要望等を頂きサービスの向上に生かしている。	市職員、介護保健課、地域住民代表、利用者家族の参加を得て、2ヶ月間毎の状況報告とサービスの実際について、それぞれの立場で意見交換が行われ、会議の結果を事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事等相談している。又、運営推進会議にも参加して頂き自事業所の状況報告を行っている。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議以外の時でも、必要時において相談、連絡、助言等の連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる行為について勉強会や日頃の話し合いを通して理解している。内玄関の施錠については防犯上遅番退勤後は施錠させてもらっている。	「身体拘束をしない」ことは、契約時に説明し実践している。定期的に合同研修、勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会主催の勉強会に参加している。又、職員間で不適切な対応にならぬようその都度注意し合っている。	虐待防止に向け、会議や勉強会を実施し理解の浸透や遵守に向けた取り組みが実践されている。新人職員に対しても「ふり返り日誌」を活用するなど、いつでも相談事に応じることのできる関係性が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会はあるが全職員に至っていない。成年後見制度利用の必要のある方については市や関係者と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している他面会時、連絡時に要望等伺っている。又、必要があれば所長等上司に報告し、運営に反映出来る様取り組んでいる。	利用者、ご家族には訪問時に意見や、要望を伺い、職員会議等で協議し改善に向けた努力がなされている。アンケート調査を年1回実施し、意見、要望等真摯に受け止める対応で日々のケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接の他会議やミーティング時等で聞いている。	日々の業務や定期面接(年2回)等で意見や提案を取り上げる等、丁寧な対応がなされており、良好な運営体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が目標を持ち、達成出来る様支援を行い、やりがいや向上心に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の職責や能力に合った研修の他、必要と思われる研修への参加を促している。又資格取得についても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の交換研修や外部研修での実習を通して交流や学ぶ機会を持ち、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、不安要望等を聞き安心してサービスを受けられるよう努めている。入居後も不安や困り事は無いか聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接に行ったり、相談に来られた際に不安等を傾聴し、安心してサービスを受けられる様努めている。入居後も話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の様々なサービスについても説明し、本人や家族にとって何が一番良いのか相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はしてもらい、出来ないところのお手伝いをさせて頂いている。又、本人の能力に合ったお手伝いをして頂く事で役割や張り合いをもって生活して頂けるよう取り組み、感謝の言葉かけもしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの様子を報告したり要望を聞きながら、本人にとってどのようにしていくのが一番良いのか相談し考えている。	面会時に利用中の生活状況を報告し、同時に家族から要望を伺い、家族と共に情報を共有し一緒に問題に対処していく関係作りに努めるなど、協力関係が構築できるように努力されている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋へ出かけたり墓参り等希望に沿った外出の支援をしている。又面会の際にはゆったりと話せるよう環境の工夫に努めている。	面会時や普段の会話の中から情報の聞き取りを行い、馴染みの関係が途切れなく継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の関わりの中で、利用者同士の関係性の把握に努め、席替えや職員が間に入る等して良い関係性が保てる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も引き続きサービス利用出来る様相談にのったり、折に触れ連絡を取りその後の様子を聞く等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時本人に聞く。困難な方については関わりや家族から話を聞いたり相談しながら、本人にとっての良い対応法を考えている。	日々の関わりの中で本人の行動や表情等の様子を十分に観察するとともに、会話等からも本人の意向把握に努めている。また、把握が困難な場合は、家族からの情報も参考にし、本人本位の関わりを大切にしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントツールを活用したり、日頃の関わりや家族から聞く等して情報収集している。	面接時における情報活用をはじめ、本人や家族、親しい知人からも生活歴やライフスタイルを聴くとともに、ケアマネから地域での活動についての情報を取得するなど、本人と地域との関わりを大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残したり申し送りで職員の気付きを共有する等して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な計画書の見直しや、必要に応じたミーティング、家族の要望等を聞き、現状に合ったケアプランの作成に努めている。	本人や家族の意向を中心とした関わりの中で細かな所まで目配りし、本人に即した介護計画の作成に努めている。計画の見直しは、3ヶ月ごとに行うことにしているが、状況に応じて、随時、ミーティングを行って見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画実施表に基づいた記録や本人の状態に応じて記録を残す、申し送る等心掛けているが記録についてはまだ慣れていない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の要望に合わせてながら、PTや看護との連携を図りながらケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理美容院に送迎してもらって出かけたが、こちらからも出向いたりしている。又、出張理容もあり、外出が難しい方も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限りかかりつけ医を受診して頂いている。家族対応の受診にはホームでの様子を手紙で医師に伝えている。又疑問な点はすぐに病院に確認している。	本人の掛かり付け医の受診を中心に考えている。家族が対応する受診には、日頃の様子などをメモ書きして情報提供している。また、家族による送迎が困難な場合には、協力する等の便宜も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から訪問看護と連携を図り、指導や助言をもらいながら受診に繋げている。又、急を要する時には同じ事業所内の看護に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態を見ながら主治医に相談したり、入院時には手紙で経過を知らせている。入院中もその後の経過等連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせてながら又、必要に応じて家族と今後について話し合いの場を持っている。	利用者の中に終末期の患者さんがおられることから、全職員がターミナルケアを意識するとともに理解も深めている。今後のケアの方向性について、一つ一つ家族と相談しながら慎重に対応がなされている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会へ参加している。又、急変時の対応のフローチャートを作成しすぐに対応出来るようにしている。	急変時に備え、全職員が救急法を受講し、知識を習得するとともに内部研修も実施する等、経験努力をしている。また、緊急時の連絡体制やフローチャートも整備されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。訓練時には地域の方にも参加して頂き、訓練の様子や施設見学もしてもらい、有事の際の協力をお願いしている。	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練時には地域の方々からも参加いただき、避難経路や避難場所の確保等について協力が得られるようお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーに配慮しながらも、一人一人に合った声掛けや対応をしている。	利用者のプライバシーへの配慮は十分なされているが、一部利用者に対する職員の言葉遣いが親しみすぎる不適当な印象を感じられる。尊厳を感じさせてくれる礼義正しい声掛けの実践に期待したい。	職員研修やミーティング等で利用者の尊厳に対しての言葉遣いや対応の改善について協議検討し、尊厳を感じることのできる対応がなされていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や要望を言いやすいような環境や関係づくりを心掛け、自己決定出来る様関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂やお部屋で思い思いに過ごされている。お手伝いや活動は体調や気分に合わせてながらして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出の際に本人と一緒に服を選んでいただいている。自分で出来ない方は、職員がその方に合った服を選んで着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け、片づけ等その方の出来るお手伝いをして頂いている。又、一人一人の好き嫌いも把握している。	食事の下ごしらえや盛り付け、片付け等の食事に関する一連の動作について無理のない範囲で手伝ってもらい、役割意識を育てている。また、利用者とともに、食卓を囲んで食事することで、食事を楽しめる環境作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量等、本人の状態や好みに合わせた食事や飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、介助や見守りが必要な方は清潔が保てるよう、職員がお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせてトイレの声掛けや誘導、お手伝いをしている。	排泄に伴う羞恥心や不安への配慮を心がけ、一人ひとりの兆候の把握にさり気無い気配りがなされている。また、パット等、一定のものでなく利用者の排泄状況に合わせた対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に飲み物を飲んでもらう、運動をする、トイレに座る習慣づけ等の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにて入浴したい時にして頂いている。自立の方については負担にならない程度の見守りや声かけをしている。	利用者が希望すれば、毎日の入浴も可能であり、朝風呂や夜間の入浴等、これまでの習慣に合わせて対応している。また、本人が同性介護を望んだ場合も可能な範囲で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休んで頂いている。眠れない方については職員が話し相手になったり、傍に寄り添う事で安心して頂ける様関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の間違いが無い様、職員同士確認しながら飲んでもらっている。又、本人の状態観察を行い看護や医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や家事手伝い等一人一人の能力に合った活動を提供している他、行事企画を行い楽しんで貰える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には散歩をしたり、墓参りや買い物、理容等外出希望の支援をしている。	理美容に関する外出支援をはじめとした散歩や買い物などの気分転換やストレス解消の機会を設けている。また、個別支援では希望に応じて墓参りなども実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金額を所有し、買い物等をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や家庭的雰囲気のある環境づくりに取り組んでいる。	フロアでは、利用者による手芸や手作りの装飾品などが多数飾られており、親しみのある雰囲気が醸成されている。トイレの出入り口の装飾など過剰にならないような配慮も必要と思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下のベンチで思い思いに過ごして頂いているが、もっと環境整備が必要と考える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきてもらうようお願いするが、お持ち下さる方、施設の設備そのままの方と様々である。家具の配置については入居時又は随時本人が使いやすいように家族と相談しながら行っている。	居室の所々に、本人の使い慣れた家具や調度品などが配置され、自宅との環境ギャップを感じさせないような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げにならぬよう配慮したりトイレ表示等行っているが不十分であり、今後も取り組んでいく。		